

古川城マップ



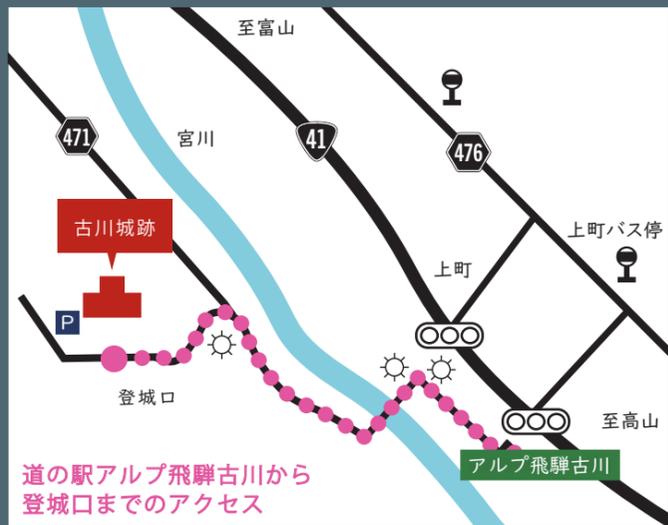
古川城へのアクセス

【公共交通機関】JR高山本線「飛騨古川」駅

飛騨古川駅から古川・神岡線（高山濃飛バスセンター行き）で「上町」下車後、登城口まで徒歩約25分。

【お車】城山の南西麓に、駐車スペースあり。

駐車場から登城口まで徒歩5分。



道の駅アルプ飛騨古川を出て左折し、250m進みます。橋を渡って県道471号に出たら、そのまま350m直進します。「(株)吉城コンポ」の看板を目印に左折し、山道を登ると、250m先の右手に登城口があります。

みどころ POINT



1 虎口

古川城の虎口（入り口）は、右側に石垣を並べた通路を直進し、正面の石垣にぶつかると右に曲がる構造になっています。現在、地表には1～2段の石垣が残っていますが、発掘調査で2m以上の高さの石垣が築かれていたことがわかりました。この石垣は金森氏によって造られたと考えられています。



2 蛤石

石の表面が蛤の形に似ていることから名付けられました。この特徴的な石から古川城は「蛤城」とも呼ばれています。もともと2つの石があり、村人が日照りに困った際に片方を川に沈めると、大雨が降ったという伝説が残っています。



3 主郭

山を削って造った平らな場所を「曲輪」と呼び、一番広い曲輪を「主郭」といいます。奥の天守櫓台には天守台のような建物が、さらにその手前には御殿のような建物があつたかもしれません。



4 櫓台

最も高い場所にある曲輪は「天守櫓台」と考えられています。発掘調査で、石を基礎とした礎石建物があったことがわかりました。この礎石建物は三木氏時代のもので、その下にあつた掘立柱建物は姉小路氏時代のものでされています。



5 帯曲輪

主郭の周りには、帯状の平らな土地「帯曲輪」が並んでいます。主郭と帯曲輪の間には急な斜面「切岸」があり、敵が簡単に登れないように守りの役割を果たしていました。



見学所要時間
登城口～虎口間 20分
虎口～櫓台間 5分
櫓台～登城口 25分
※見学時間は含んでおりません。



史跡案内看板



登城口



駐車場

登城口から200m上がって右手に約5台の駐車スペース有り



危険な生物

熊 マダニ 蜂 蛇

登城時の注意事項

- ゴミは各自で持ち帰るなどして大切な文化財の保全にご協力ください。
- 各山城跡周辺には、基本的にトイレや商店はありません。事前に道の駅等でお済ませください。
- 山城の多くは個人の方が所有する山です。山での火の使用は禁止です。
- 倒木や崩落等で通行できない場合は無理をせず引き返してください。
- 登山道が整備されていない山城の来訪はご遠慮ください。

図解『古川城』



発掘調査から読み解く古川城の歴史

宮川の西岸に築かれた姉小路氏の一族、古川氏の居城です。後に三木氏、金森氏の拠点となり、増島城完成前は重要な拠点でした。発掘調査で、主郭には三木氏時代の礎石建物が確認され、東側の虎口には三木氏と金森氏の時期の石垣も発見されました。古川氏の遺物も見つかると、各勢力の拠点として使用されていたことが裏付けられています。

国史跡姉小路氏城跡の歴史を目撃せよ!



飛騨市古川町周辺のおもな城館跡の位置

国史跡姉小路氏城跡とは

姉小路氏城跡は、古川城跡、小島城跡、野口城跡、向小島城跡、小鷹利城跡の5つの城跡の総称です。調査では、姉小路氏が古川盆地を囲む山上に城を築き、その後三木氏や金森氏が改修したと確認されました。これらの山城群の築城や改修の様子から、時代とともにこの地域の支配勢力がどのように変わっていったのかを知ることができます。令和6年2月21日、国史跡に指定されました。

古川城 復元イラスト



画：香川元太郎 監修：中井均・飛騨市教育委員会

天正13年の金森氏が飛騨侵攻時に一時的に入城したと伝わり、その時の様子を想像して描いています。古川城の対岸にあったと考えられる町場を増島城下に移転させている途中です。遠景の左端の山城は小島城です。

飛騨古川の礎を築いた武将

姉小路氏時代



姉小路基綱画像（個人蔵）

姉小路氏は公家の一族です。南北朝時代に「飛騨国司」と称された藤原家綱の一族が飛騨に入り、古川盆地周辺を治めました。15世紀前半になると、一族は古川氏・小島氏・向氏の3つに分かれます。古川氏は京都で活動し、小島氏と向氏は飛騨を拠点にしました。特に、古川氏の基綱や済継は宮廷を代表する有名な歌人として知られています。

三木氏時代



三木自綱画像（千光寺蔵）

三木氏はもともと守護・京極氏や守護代に仕える立場でしたが、南飛騨を拠点にしながら勢力を広げ、高山盆地や古川盆地も支配しました。三木良頼の時代には、姉小路氏の力を上回り、正式に古川氏の名を継ぎます。さらに、江馬氏との「八日町の戦い」に勝利したことで、飛騨の中でも特に強い武将となり、地域の支配を確立しました。

金森氏時代



金森長近画像（素玄寺蔵）

金森氏は美濃・土岐氏の一族とされ、長近は若くして織田信長に仕えました。天正13年(1585年)に飛騨へ侵攻し、三木氏を滅ぼして飛騨国を支配。その後、豊臣秀吉に仕えましたが、秀吉の死後「関ヶ原の戦い」では東軍として参戦し、徳川家康の勝利に貢献しました。長近の死後は子の可重が跡を継ぎ、金森氏は6代にわたって飛騨を統治しました。

南北朝
室町
安土桃山
江戸

1378年 姉小路氏
家綱以降、飛騨国司と称される
【古川氏】(古川城)
【小島氏】(小島城、野口城)
【向氏】(小鷹利城、向小島城)

1411年
LOSE 【国司】 姉小路氏 VS 【守護】 WIN 京極氏

1560年 三木氏
姉小路氏の一家・古川氏の名跡を継ぐ

1585年
金森氏の飛騨侵攻

金森氏
金森長近以降6代続く

見どころの解説

虎口

注目! 城の入口には、敵の動きを封じて攻撃しやすくする「樹形虎口」が見られます。



櫓台

注目! 最も高い場所にある曲輪は天守櫓台と考えられ、発掘調査で礎石建物があったと分かりました。また、その手前には最も広い曲輪があり、ここにも天守の前に御殿のような建物が建っていた可能性もあります。



周辺情報



道の駅アルプ飛騨古川

周辺の観光情報やイベントパンフレットが充実し、旅の情報収集に最適なスポット。トイレや休憩スペースも完備され、快適に過ごせます。産直市場では新鮮な特産品が揃い、お食事処では地元の味が楽しめます。ぜひお立ち寄りください。

(所在地) 飛騨市古川町上町1348-2
古川城から車で5分



増島城跡

県指定の史跡。飛騨地方には他に類を見ない平城で、本丸櫓台の石積みと堀の一部が現存しています。

(所在地) 飛騨市古川町片原町8-35
古川城から車で10分



瀬戸川

金森可重が増島城の堀を延長して作った、開田用の水路。武家地と町人地を分けるためにも利用されていました。

(所在地) 飛騨市古川町老之町
古川城から車で5分